

幼児が表現する楽しさを味わうための環境構成と援助の工夫

～つくったり、かいたりする造形遊びを通して～

糸満市立糸満南幼稚園教諭 稲嶺 あゆみ

I テーマ設定の理由

近年、子ども達を取り巻く環境は、少子化・核家族化・都市化・情報化・人間関係の希薄化等、様々に変化している。それに伴い、子ども達が戸外で豊かな自然に触れて遊ぶ機会が減り、テレビ・ゲーム・DVD等受け身の遊びが多く、直接体験で得られる豊かな感情体験を味わうことが減少している。また、既製の玩具が安易に手に入るため、自分でイメージを膨らませ工夫して遊びをつくり出す力が育ちにくくなっていると思われる。

幼稚園教育要領「表現」の領域では「感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする。」と示されており、「豊かな感性や表現する意欲は、身近な環境とかかわる中で、自分の感情や体験を自分なりに表現する充実感を味わうことによって育てられる」と述べている。造形的な表現は、幼児が自分のイメージしたことが実現されたことを実感することで満足感や充実感を味わうことができると共に、作品を通して自分と友達との違いや良さに気づいたり、友達との共同作業を行うきっかけにもなることから、幼児期における心身の発達に大きな役割があると考えられる。

本園の園児の実態をみると、自ら進んで絵をかいたり折り紙や切り紙遊び、粘土遊びをしたり等、様々な造形遊びを楽しんでいる。しかし、中には興味はあるがどうやってつくったり、かいたりするのか方法が分からず戸惑いを見せたり、苦手意識があり取り組もうとしない姿が見られたり等、用具や素材の扱い方にも個人差や課題が見られる。

私自身のこれまでの保育を振り返ってみると、幼児の「表現」と豊かな感動体験を結びつけた保育の展開ができていたか、幼児の主体性よりも教師の意図を優先した表現活動になっていなかったか、幼児のイメージや創造性を膨らませ遊びを発展させる援助ができていたか等の課題があった。また、幼児の発達の時期に即した教材研究や素材・材料の選定も不足していたのではないかとと思われる。

そこで、本研究では幼児がつくったり、かいたりする造形遊びを通して、表現する楽しさを味わうことができるよう、幼児一人一人が興味・関心を持って主体的に活動することができる環境構成の工夫と、感動体験につながる活動の充実を図り、そこから幼児の表現する意欲を引き出せるような援助の方法を探りたいと思い、本テーマを設定した。

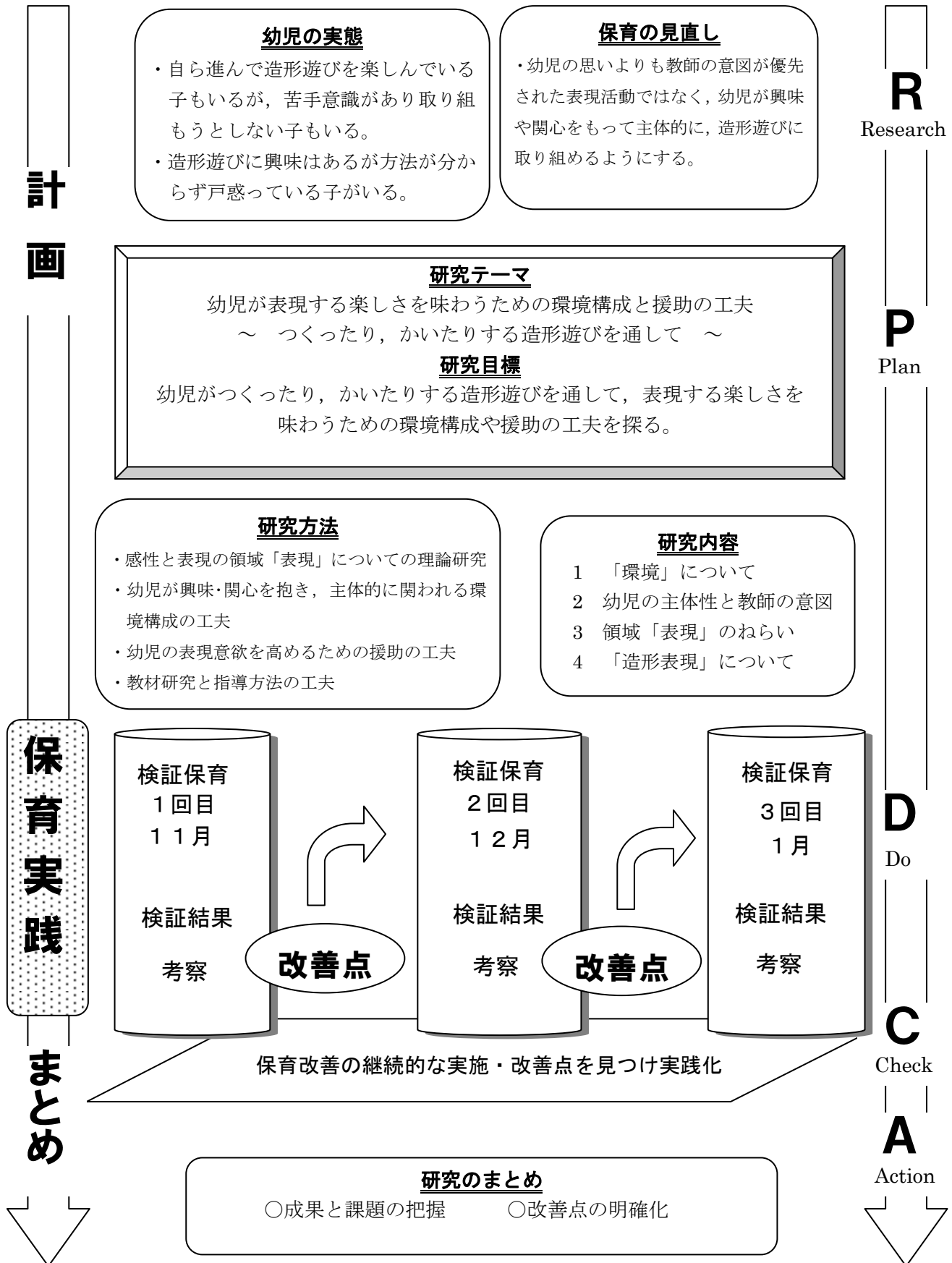
II 研究目標

つくったり、かいたりする造形遊びを通して、表現する楽しさを味わわせる環境構成と援助の工夫を探る。

III 研究の方法

- 1 感性と表現の領域「表現」についての理論研究
- 2 幼児が興味、関心を抱き、主体的に関われる環境構成の工夫
- 3 幼児の表現意欲を高めるための援助の工夫
- 4 教材研究と指導方法の工夫

IV 研究の構想図



V 研究内容

1 「環境」について

(1) 「環境」とは

「環境」とは幼児の身の回りにあるもの、幼児を取り巻くすべてが環境であり、物的な環境や人的な環境、生き物の環境、自然や社会事象の環境、文化的な環境等がある。幼稚園教育要領解説の幼稚園教育の基本に「幼稚園教育においては、教育内容に基づいた計画的な環境をつくり出し、その環境にかかわって幼児が主体性を十分に発揮して展開する生活を通して、望ましい方向に向かって幼児の発達を促すようにすること、すなわち『環境を通して行う教育』が基本となるのである。」と示されている。幼児期における幼児と環境とのかかわりは重要であり、幼児の望ましい発達において必要不可欠なものであると考える。

(2) 「環境構成」とは

「環境構成」とは、保育の場の環境を教師が整えることであり、幼稚園教育要領解説では「環境の中に教育的価値を含ませながら、幼児が自ら興味や関心を持って環境に取り組み、試行錯誤を経て、環境へのふさわしいかかわり方を身に付けていくことを意図した教育である。」と示されている。教師は、豊かな体験ができるような場や幼児の主体的な遊びを生み出すために必要な環境を意図的、計画的に構成することが大切であると考え。また、幼稚園において望ましい環境は一つだけではなく、同じ環境であっても幼児に与える影響はそれぞれである。教師は幼児が主体的にかかわることができるような環境構成に努め、遊びの様子や幼児の興味、関心を読み取り、タイミングを逃すことなく、環境を再構成していくことも大切であると考え。

2 幼児の主体性と教師の意図

幼稚園教育要領解説では、「環境を通して行う教育は、幼児の主体性と教師の意図がバランスよく絡み合って成り立つものである。」と示されており「幼稚園教育が目指しているものは、一人一人の幼児が教師の援助の下で主体性を発揮して活動を展開していくことができるような幼児の立場に立った保育の展開である」と述べられている。教師は、幼児との信頼関係を基盤に内面理解に努め、一人一人の幼児に今どのような体験が必要なのかを考え、そのためにはどうしたらよいのかを常に工夫し、保育に取り組んでいくことが大切だと考える。

3 領域「表現」のねらいについて

(1) 「表現」とは

平田（2009）は、『表現』とは意思のある『表』と内面の変化の『現』との組み合わせであり、日常のなかの伝えたいという意思表示は『表』で、その日その時の体調や心持が微妙に変化している内面の変化が現れている『現』である。『表』は子どもに寄り添って聴く耳をもつこと、『現』は内面の変化を自分以外の人が感じ取って（読み取って）くれることで成り立つ。コミュニケーションの手段としての『表現』でもある。」と述べている。「表現」が成り立つためには、教師と幼児との間の信頼関係を基盤として、幼児の声を聞き、受け止め、仕草や表情などから内面の変化を感じとろうとする教師の姿勢が大切なのではないかと考える。また、人間は生きていくうえで、自分が思ったり感じたりしたことを言葉や行動で絶えず表現している。表現とは生きている営みそのものであることから、教師は幼児の何気ない行動や意図をもって行う表現活動にいたるまで、あらゆる表現を尊重していく必要があると考える。

(2) 「豊かな感性」とは

平田（2009）は『感性』とは感じることをいうのではなく、『感じる』という入口から、考えたり思うことを経て、『行動する』という出口までの一連の行為を『感性』という」と述べている。感性とはただ、感覚器官で「感じる」ということではなく、感じたことによって考えや思いが生じ、その考えや思いを行動に移すことであると捉える。例えば、冷たい風を肌で感じ、「寒い」と思いそれを言葉にしたり、手をこすり合わせる等の行動をする。また、うさぎを見ることで「かわいい」

と思ひ言葉にしたり、笑顔がでる、触れてみる等の行動に現れる。感性を豊かにするためには、「感じた」ことを自分自身の中で考えたり思ったりするだけではなく、行動に移すことが大切なのではないかと考える。幼児が感じるという入り口から行動に移すという出口にきたことを丁寧に読み取り、黙って受け止めたり、時には共感したり、時には言葉で返してあげたりする等の教師の姿勢が、豊かな感性を育むことにつながっていくのではないかと考える。

(3) 「自分なりに表現する」とは

平田(2009)によると「表現とは『感じて』『考えて』『行動する』ことであり、感じ方は人によって違うし同じ人でもその時々で変わる。『感じ方』が変われば『考え方』も『行動』も変わり、そうした人によって違うことが『表現』であり、〈自分なり〉が基本である。答えがひとつ・・ではないことが前提である」としている。同じ物を見たり、同じような経験をしても感じ方は人それぞれであり、そのため表現も皆同じではないことを理解し、幼児の表現の違いを受け止めることが必要である。また、一人一人の幼児の内面理解に努め、さらにその日その時の幼児の心持まで理解することが表現を受け止めるうえで、大切であると考え。違いを受け止めてもらえることで、幼児は自分自身に誇りを感じたり自信を持って自分なりに表現するようになるのではないかと考える。

(4) 「創造性を豊かすること」

保育用語辞典第6版(2011)によると、創造性とは「新たな考えや物を創りだしたり、高度な問題を解決するための能力のことである。」と示されており、保育内容・表現(2012)では、「創造性が豊かになるためには、自由にイメージを膨らませ、それを自由に表現することが保障されていなければならない。」と示されている。幼児が様々な環境とかかわる中で出てきた発見や驚き、喜び、試行錯誤や自分なりの工夫等は創造性の発達を支える土台になっているのではないかと考える。幼児の自由な発想を受け止め、自分なりの工夫やアイデアを認めて表現意欲を高めていくことが創造性を豊かにすることにつながるのではないかと考える。

4 「造形表現」について

(1) 「造形表現」とは

楨英子(2008)は『『造形』という言葉は『形をつくる』という意味であり、表現の手立てを示している。描画材粘土、箱や積み木などのものを使って目で見てわかるように表現することを『造形表現』という。表現の過程を視覚的に共有し、その結果を後からでも共感し合うことができるのが、目に見える形が残る造形表現特有の教育的効果である」と述べている。造形表現の特徴をいかに、技術や技能を身につけるだけではなく、表現する楽しさや充実感を味わえるようにしていくことが大切ではないかと考える。

(2) 各年齢における造形的な遊び

各年齢における造形的な遊びの特徴と発達に即した援助の在り方を保育内容・表現(2012)を参考に表1としてまとめた。

表1 各年齢における造形的な遊び

年齢	造形的な遊びの特徴	発達に即した援助の在り方
3歳児	自分なりのイメージをもつて、考えてかくようになっていく。感覚に訴える遊びを十分に行うことが課題。	様々な素材に触れ、その素材そのものに慣れ親しむことができるようにする。
4歳児	認識能力が高まる。ものをつくり出すことに興味をもつ。「表現したい」という思いと表現技術のギャップに悩み、挫折感を味わい苦手意識を持ち始める時期。	自信をもって造形表現にとりこんでいけるように幼児の表現を受け止め、援助の方法を考えていく。
5歳児	友達とのつながりを重視する遊びが主になってくる。「遊ぶために必要」という必要性から造形的な活動が生まれる。今までの様々な素材体験、表現方法の中からやりたい遊びのために適したものを考え、使いこなすようになってくる姿が見られる。	幼児が思いを実現させようと努力していく過程で、必要なものをそろえたり、難しい技術が出てきたらそれとなく伝えるなどのさりげない援助をする。

VI 研究の実際

1 検証保育（1回目・11月）「みんなで動物園に行くの、楽しみだな」



(1) 設定理由

幼児は幼稚園から園外に出掛けることや友達と一緒に動物園へ行くことに期待をもち、動物に対する興味や関心をもつことで、実際に本物の動物を見たり触れたりした時に、心が揺さぶられ、トキメキを感じ、感動を得ることが考えられる。その体験を、言葉や身体、造形等、様々な形で表現することが予想される。その中で、信頼している教師や好きな友達に見せたい、伝えたい、自分の体験を表現してみたいという気持ちから、つくってみよう、かいてみようという行動につながることも予想される。幼児がつくってみたい、かいてみたいと思った時に、それらが実現できるような環境構成の工夫と教師の援助について探ってみようと思い設定した。

(2) 保育のねらい

- ① 友達と一緒に動物園に行くことに期待をもち、いろいろな動物に興味や関心をもつ。
- ② 興味や関心のある動物を実際に見たり触れたりすることで、いろいろな気づきや発見をし、驚きや不思議さ等の感動を味わう。
- ③ 自分の体験したことを自分なりに表現することを楽しみ充実感を味わう。

(3) 検証のねらい

- ① 友達と一緒に動物園に行くことに期待をもち、いろいろな動物に興味や関心がもてるような環境構成と援助の工夫を図る。
- ② 動物を見たり触れたりしたことで心が動いている姿を見逃さず、丁寧に受け止めると共に教師や友達と共有できるようにしていく。
- ③ 幼児が自分なりに表現することの楽しさを味わい、充実感を味わうことができるようにする。

(4) 考察

- ① 遠足に対する期待や動物に興味や関心をもって動物園に出掛けたことで、動物を見た時の心の揺さぶりや感動につながっていったのではないかと考えられる。
- ② 動物園での幼児の気づきや発見、感動したことを教師が丁寧に受け止め、共感することを意識して行ったことで、幼児がどの動物をつくろうか悩んでいる時に一緒に見た動物の話題を取り上げることができ、幼児のイメージの広がりにつなげることができたのではないかと考えられる。
- ③ 遠足で自分が感じたり、考えたりしたことを全体の場で発表する機会を設けたことで、友達同士互いに認めあうことができ、より感動が深まり表現する意欲につながっていったのではないかと考えられる。
- ④ 幼児がつくったり、かいたりすることを十分に楽しめるような時間と場（大きな紙をつなげてかくことができる等）を用意したり、その子なりの表現を受け止め、周りの子にもその良さを知らせたりすることで、継続して遊びを楽しむ姿が見られた。そのことから、自分なりに表現することを楽しみ充実感を味わうことができたのではないかと考えられる。
- ⑤ 例年、遠足前に導入としてバスやリュックサック製作を行い壁面を飾ったり遠足ごっこをしていたが、ごっこ遊び等は行事を経験してから出てくる遊びであり、幼児の主体性よりも教師の意図を優先していたのではないかと考えられる。

(5) 改善点

- ① 製作を行う場や、用具の使い方について幼児と共に確認し、安全に製作が楽しめるようにしていく。
- ② 遊びのコーナー、生活に必要な物（清掃用具、当番活動）があるコーナー等、幼児の遊びや生活の流れに合わせて環境を構成していく。

2 検証保育（2回目 12月） 「サンタさん、きてくれるかな、きてほしいな」

(1) 設定理由

社会や地域・家庭でもクリスマスの雰囲気が盛り上がっている時期に、幼稚園においてもクリスマスやサンタさんに関する絵本や話題をクラスみんなで楽しむことにより、サンタさんに来てほしいという期待が高まることが予想される。そのためにはどうすればいいのか、幼児の様々な発想やイメージが出てくることが予想されることから、それらを実現していくためにはどういった環境構成や教師の援助が必要であるかを探りたいと思い設定した。

(2) 保育のねらい

- ① クリスマスやサンタクロースに興味や関心をもち、自分なりのイメージを膨らませていく楽しさを味わう。
- ② いろいろな素材に親しみながら、必要なものをそろえたりして、自分がイメージしたことを表現する楽しさを味わう。

(3) 検証のねらい

- ① クリスマスやサンタクロースに関する絵本や話題から出てくる様々なイメージや発想を友達と共有し、クリスマスへの期待がより高まっていけるようにする。
- ② 幼児がイメージしたことを表現したり、いろいろな素材に触れる中からイメージが膨らんでいけるような環境構成や援助の工夫を図る。
- ③ 友達がつくった作品を見ることで、友達を認めたり、自分もつくってみたいという気持ちもてるようにする。

(4) 考察

- ① 社会や地域でもクリスマスの雰囲気が盛り上がっている時期に、クリスマスにかかわる表現を教材化していくのは、幼児の期待や意欲を高めるいいチャンスであり、教師はそのタイミングを逃さず適切な環境構成を行うことが必要であると考えられる。サンタさんを迎える準備をどうしたらいいのか考える場を設けたりする等の「きっかけ」を大切にすることで、幼児が主体的につくったりかいたりするようになったのではないかと考えられる。
- ② クリスマスへの期待が高まっている時期に、普段にはない色々な素材を用意したことで興味を引き、自分がイメージしていた以上のものをつくれるという期待感と製作意欲が高まり、工夫する姿が見られたと考えられる。
- ③ キラキラした素材や明るい色の素材を用意し、幼児と一緒に保育室を飾り付けしたことで、部屋の中の明るい雰囲気を感じとることができたのではないかと考えられる。
- ④ 飾られている友達の作品を見たり、全体の中（幼稚園ニュース）の中で取り上げられていることに対する憧れから刺激を受け、自分もつくろうという意欲につながっていったのではないかと考えられる。
- ⑤ 保育室において、ここではブーツ、ここではツリーをつくれるようにとテーブルの上に素材を準備して環境構成をしたことで、幼児の主体性よりも教師の意図を優先した環境構成になってしまったと考えられる。
- ⑥ ブーツや輪つなぎづくりの様子から、穴開けパンチやホチキス等の用具の使い方が身についていない姿が見られたのは、教師が意図的・段階的に用具を使う経験について丁寧に指導していなかったことがあるのではないかと考えられる。

(5) 改善点

- ① 用具や素材は、幼児が必要に応じて取り出して使うことができるようにして置き、自ら遊びを選び、考えたり、工夫したりする姿につなげていくようにする。個々の様子を見ながら必要に応じて用具の扱い方に気づいていけるような援助を行う。
- ② 幼児が表現する楽しさを味わう時、幼児の心の中にはサンタさんに見せたいな等のストーリーがあるということを大切に、幼児の思いを受け止める援助を行うようにする。

3 検証保育（3回目 1月） 「どうしたら、じょうずにつくれるかな？」

(1) 設定理由

新年を迎え、正月に関連する遊びとして、コマ回しやすごろく・けん玉・福笑い・凧揚げ・カルタ遊び等を楽しんだり、年賀状を出したり、もらったりする経験から幼稚園でも郵便屋さんごっこ等を楽しむことが予想される。遊びを楽しみながら、遊びに必要なものを自分でつくって遊ぶ楽しさが味わえるような環境構成や援助について探りたいと思い設定した。

(2) 保育のねらい

- ① 伝統行事の意味や由来について知り、興味や関心をもつ。
- ② コマ回しやすごろく・けん玉・福笑い・凧揚げ・カルタ・郵便屋さんごっこ等の正月ならではの遊びを楽しむ。
- ③ 遊びに必要なものを、自分で工夫しながらつくる楽しさを味わう。
- ④ 自分でつくったもので遊ぶ楽しさを味わう。
- ⑤ いろいろな遊びを通して、文字や数字に興味や関心をもつ。

(3) 検証のねらい

- ① 絵本や話し合い等を通して、伝統行事に興味や関心をもてるようにする。
- ② いろいろな正月遊びに興味や関心をもち、楽しむことができるようにしていく。
- ③ 遊びに必要なものをつくってみたいという気持ちが出てきたときに、それが実現できるような環境構成や援助の工夫を図る。
- ④ 自分でつくったもので遊ぶ楽しさを味わう中で、もっと工夫してみよう等、次への意欲へつなげられるようにする。
- ⑤ 遊びを楽しむ中で、文字や数字に興味や関心をもてるようにしていく。

(4) 環境構成の工夫

- ① 正月やムーチーに関する絵本を保育室の絵本コーナーに置いたり、鏡餅を飾る・おせち料理の写真を掲示する等、伝統行事に興味や関心をもてるようにする。
- ② いろいろな正月遊びが楽しめるように、それぞれの遊びが混同しないような場の設定を行う。また、遊びや生活の流れにあわせて幼児の動線を考えたコーナー配置をする。
- ③ 遊具を出したり片付けたりがスムーズにいくように、それぞれの収納場所を決め、絵や文字で表示しておく。
- ④ 遊びに必要なものやイメージしたものが、つくったりかいたりできるように、いろいろな素材や廃材、用具等を用意しておき、幼児が自分で必要な時に取り出して使えるようにしておく。
- ⑤ 製作途中の作品やできあがった作品を、みんなの目に留まる場所に飾り、友達の作品にも触れられるようにしていく。
- ⑥ 文字や数字に興味をもてるように、遊ぶ場の近くに五十音表や折り紙（コマ・獅子）の折り方を示した図等を掲示する。

(5) 教師の援助

- ① いろいろな正月遊びがあることを知らせ、それぞれの遊び方やルールを確認していく。
- ② 一緒に遊びを楽しみながら、教師が実際にコマやけん玉、凧などをつくって見せることにより「自分もつくってみよう」という気持ちをもてるようにしていく。
- ③ つくったり、かいたりしている時の幼児の表情やつぶやき、友達同士の会話等を細かく把握しながら、これまでのけん玉や凧揚げ等の遊びとのかかわりを認め、出来上がった作品の形が、いびつであったり既成の玩具とは違った形であっても、幼児なりのイメージや工夫を受け止めることで表現する楽しさや充実感が味わえるようにしていく。
- ④ 幼児がつくったものを使って、教師も一緒に遊ぶことで、その楽しさを共有する。
- ⑤ 遊びを楽しみながら、文字や数字に興味をもてるような言葉かけを行う。

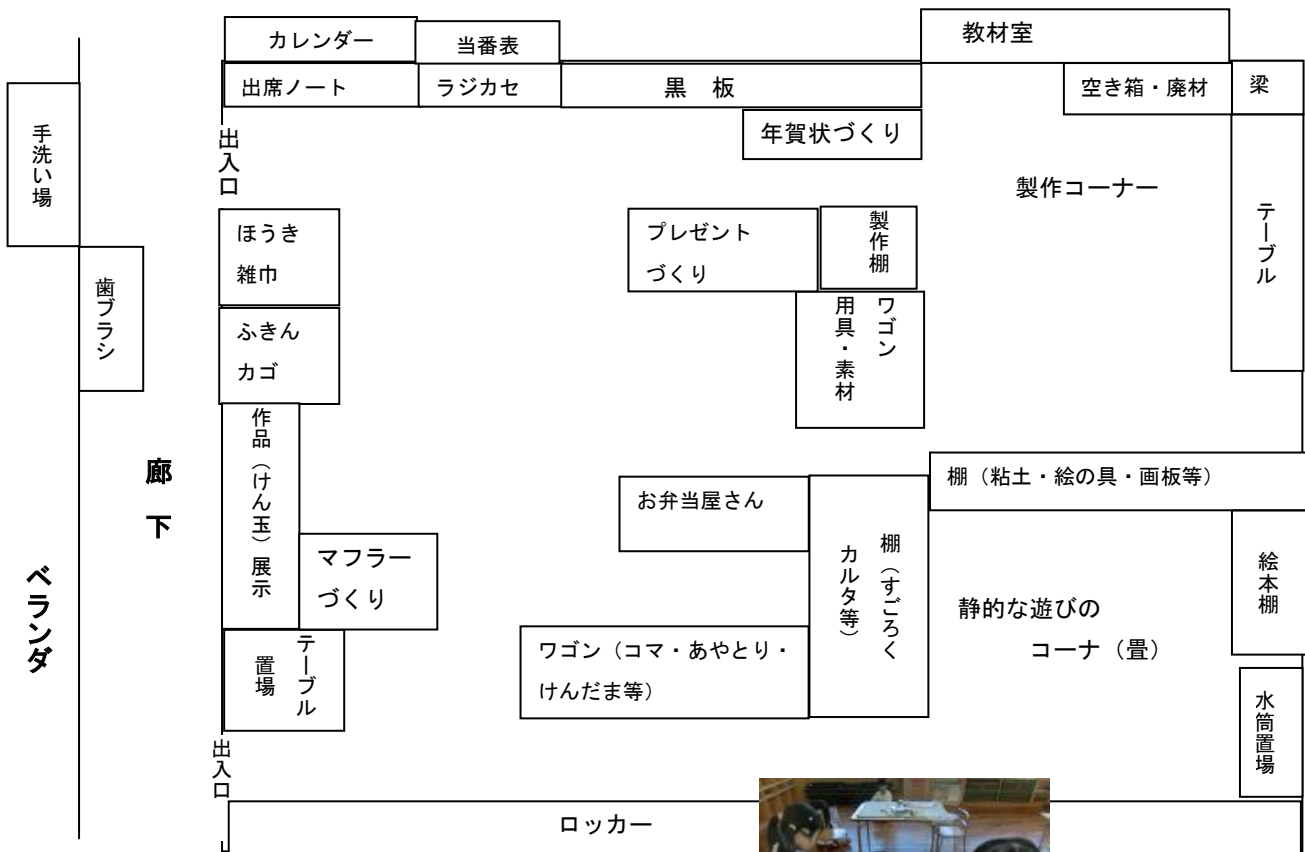
(6) 検証保育の流れ

月日	検証のねらい	予想される幼児の姿	○環境構成 ★教師の援助	検証結果
1月23日	・コマやけん玉等の遊びを楽しみ中で、自分でもつくれそうだという気持ちももてるようにしていく。	・コマやけん玉等既製の玩具で遊ぶ。 ・コマや凧・けん玉等遊びに必要なものを自分でつくる。	○環境構成 ★教師の援助 ★教師も一緒に遊びながら楽しさを共有し、コマやけん玉を実際につくって見せる。 ○つくったり、かいたりすることができるように、必要な用具や素材を用意しておく	・コマやけん玉等既製の玩具で遊ぶ姿が見られた。 ・けん玉・凧・マフラー・おせち料理・お餅をつくることを楽しんでいた。
1月26日	・遊びに必要なものを自分でつくったり、かいたりする楽しさが味わえるようにする。	・凧やコマ、けん玉等友達の作った作品を見て、自分でもつくってみる。 ・おせち料理屋さんごっこを楽しむ。	○友達の作品を目につきやすい棚の上などに飾り、自分もつくってみようという意欲につながるようにする。 ★幼児が、つくったり、かいたりしている姿を受け止め、認めていく。様子を見守りながら、必要に応じてアイデアを出したり、手助けをしたりする。	・凧やけん玉等をつくり、それを使って遊ぶ姿が見られた。 ・アイスやデザート、ジュース等をつくりお店屋さんごっこを楽しむ姿が見られた。
1月27日	・地域の伝統行事に興味や関心がもてるようにする。 ・遊びに必要なものをつくったり、かいたりする楽しさが味わえるようにする。	・ムーチーの由来や各家庭でのムーチー作りに関する話題を楽しむ。 ・お店屋さんの看板をつくる。	○ムーチーの由来に関する本を保育室の絵本コーナーに用意しておく。 ★ムーチーに関する絵本を読み、興味や関心がもてるようにする。 ○お店屋さんの看板がつけられるような素材や材料等を用意しておく。	・ムーチーに興味や関心をもっている様子が見られた。 ・お弁当屋さんごっこが盛り上がり、お店の看板をつくり設置したことで興味をもつ子が増えた。
1月28日 本時	・遊びに必要なものを自分でつくったり、かいたりして、それで遊ぶ楽しさが味わえるようにする。	・遊びに必要なものを工夫しながらつくる。 ・自分がつくったもので遊ぶ。	○お弁当屋さんごっこに必要な素材や用具を用意しておく。 ★つくっている様子を見守りながら、その子なりの工夫を認めたり、受け止めたりする。そのことを他の幼児にも知らせ、本人の自信につなげると共に、他の幼児のアイデアにもつなげていく。 ★幼児がつくったものを使って、教師も一緒に遊ぶことで楽しさが味わえるようにする。	・昨日の遊びの続きで、お金や財布等をつくり、売り買い等のごっこ遊びを楽しむ姿が見られた。 ・自分達で考えながら、遊びに必要なものをつくり遊びを進めていた。
考察	<p>① おせち料理づくりを楽しむ姿が見られたのは、教師が家庭で幼児がお正月という行事を経験したであろうと予想し、そこを逃さず幼児が発想しやすいタイミングで写真の掲示や重箱を置く等の環境構成を行ったからだと考えられる。</p> <p>② 教師も一緒に遊びの楽しさを共有する中で、こまやけん玉を実際につくって遊ぶ姿を見せることにより、幼児がつくってみようという気持ちももてるのではないかと考えられる。</p> <p>③ 幼児の遊びの様子を把握し、その姿から次の日の遊びを予想して用具やコーナーを配置する、必要と思われる素材を用意する等の環境構成を行ったことで継続して遊びを楽しむことができ、おせち料理づくりからお弁当屋さんごっこへと遊びが展開していったのではないかと考えられる。</p> <p>④ 作品を、みんなの目に留まる場所に飾り、友達の作品にも触れられるようにしたことで、「自分もつくってみよう」という意欲が湧き、つくる子が増えてきたのではないかと考えられる。</p>			
改善点	<p>① 幼児の発言を受け止め、幼児の主体性をいかし気持ちに添いながらイメージを膨らませていけるようにする。</p> <p>② 伝統行事にかかわることの意味や由来について、絵本等を活用し伝えていく。</p> <p>③ 幼児が表現する楽しさを味わっている姿が見られたので、次のステップを考え保育を展開していけるようにする。</p>			

(7) 保育の展開 指導案

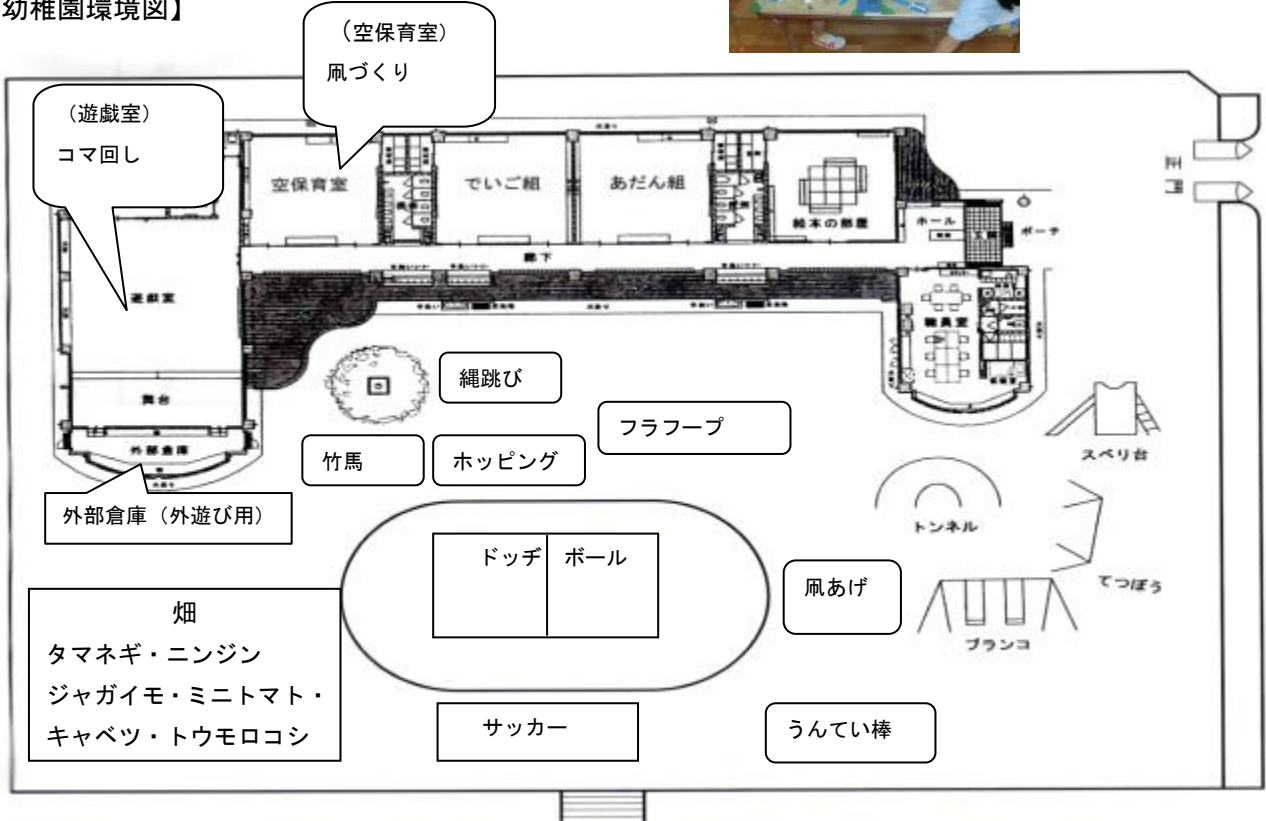
日案		平成 27 年 1 月 28 日 (水)		糸満市立糸満南幼稚園	
		でいご組 男児 19 名 女児 15 名 計 34 名		担任 稲嶺あゆみ	
幼児の姿	<ul style="list-style-type: none"> ・「おにムーチー」の絵本を読んだり、各家庭でのムーチーの様子などを話し合ったりしたことで、興味や関心もち、そこから節分行事についての話題も出てきた。 ・けん玉やコマ、凧などを友達と協力しながらつくり、それを使って遊ぶ姿が見られる。 	ね	○友達と一緒に自分でつくったもので遊ぶ楽しさを味わう。	内容	<ul style="list-style-type: none"> ・遊びに必要なものを工夫しながらつくる。 ・友達と一緒につくったもので遊ぶ。
		内容			
予想される幼児の活動		○環境構成 ★教師の援助			教育要領の視点
8:00		★笑顔で挨拶を交わし、一人一人を温かく迎えながら健康状態を把握する。			言葉内容 (6)
◇順次登園する		★小学生と一緒に挨拶運動を進んで行っている幼児を認め、周りの幼児にも知らせていく。			
<ul style="list-style-type: none"> ・所持品の始末をする。 ・挨拶運動をする。 ・栽培物の世話をする。 		○小学校の運動場を利用し、マラソンが行えるようにする。			人間関係内容 (3) 健康内容 (8)
8:20		★教師も一緒にマラソンをし、体を動かす心地よさや楽しさを味わえるようにしたり、健康な体作りにもつながっていくことを伝えたりしていく。			
◇マラソンをする。		○ボール遊び (サッカー・ドッジボール) や運動遊び、鬼ごっこ等、戸外での遊びが安全に楽しめるように、園庭の使い方を幼児と一緒に考えていく。また自分達で必要な用具を準備して遊びを進めていけるように遊具や用具を用意しておく。			健康 (2) 内容 (3)
◇手洗い・うがい・水分補給をする。		★友達と一緒に思い切り体を動かして遊ぶ楽しさを味わえるようにする。また、自分たちでルールを確かめ、考えて遊びを進めていこうとする姿を認めていく。			
◇好きな遊び楽しむ		○遊びに必要なものがつくれるように、いろいろな素材や用具を使いやすいように用意しておく。			健康 (2) 内容 (3) 人間関係内容 (8)
【戸外遊び】		★つくったり、かいたりしている時の幼児の表情やつぶやき、友達同士の会話等を細かく把握しながら、幼児のイメージや工夫しているところを認めていく。その子なりの表現を受け止め、出来ばえではなく表現する過程を大切にすることで、表現する楽しさや充実感を味わうことができるようにしていく。			
<ul style="list-style-type: none"> ・運動遊び (竹馬・縄跳び・フラフープ・ホッピング・ボール遊び) ・鬼ごっこ・固定遊具 ・スクーター等 		★幼児がつくったものを使って、教師も一緒に遊ぶことで、その楽しさが味わえるようにする。			表現内容 (5) (7) 環境内容 (7)
【室内遊び】		★スムーズに片付けができるように励まし、頑張っている子を認めてあげたり、教師も一緒に手伝ったりしながら、片付いた後の気持ちよさを伝えていく。			
<ul style="list-style-type: none"> ・コマ回し・あやとり ・すごろく・かるた・オセロ ・トランプ・マフラー作り ・製作 (コマ・凧・けん玉・すごろく・プレゼント・お弁当屋さんごっこに必要なもの等) ・お弁当屋さんごっこ ・郵便屋さんごっこ等 		○自分でイスを準備し、座って話し合いが行えるようにする。			言葉内容 (10) 健康内容 (8)
9:45		★今日の遊びについて話し合いをする。楽しかったことや、気づいたこと、みんなに紹介したいこと等を発表し、今日の振り返りが明日への期待へとつながるようにしていく。			
◇片付け					言葉内容 (1) (2) (4)
10:00					
◇クラスで話し合い					
評価		<ul style="list-style-type: none"> ・遊びに必要なものをつくったり、つくったもので遊ぶ楽しさを味わうことができていたか。 ・幼児が主体的に遊びを楽しめるような環境構成や援助の工夫はできていたか 			

【保育室内環境図（でいご組）】



凧づくりの様子

【幼稚園環境図】



Ⅶ 成果と課題

1 研究の成果

- (1) 豊かな感性を養うためには、環境とかかわり心を揺さぶられ感動するという体験が必要であり、行事という非日常的な体験はとても効果的である。行事のタイミングを逃さない教師の配慮や意図的・計画的な環境構成が必要であることが分かった。また事前の導入として興味や関心を高め期待を持たせたり、事後に感動を共有できるようにする等の配慮をすることでさらに効果が得られることが分かった。(Ⅵ1 (4)①③, 2 (4)①, 3 (6))
- (2) 幼児の感じている心の動きを教師や友達が受け止め共感することで、感動したことを伝え合う楽しさを味わい、表現する意欲が高まったりイメージが広がったりして、つくったりかいたりする活動につながっていくことが分かった。(Ⅵ1 (4)②③, 3 (6))
- (3) 「自分なりに表現して楽しむ」ためには、幼児のイメージが湧いたり、遊びに必要なものが出てきた時に、いつでも取り出して使える多様な素材や材料、用具等があるという環境構成や、遊びや活動が十分に楽しめる時間や場所を保障することが有効である。(Ⅵ1 (4)④, 2 (4)②, 3 (6))
- (4) 「自分なりに表現して楽しむ」ためには、幼児が主体的に活動することが重要でありその手立てとして、他の幼児の作品に触れられるようにしたり、幼児の願いや思いから表現しようという気持ちにつなげていく等の「きっかけ」が有効であることが分かった。(Ⅵ2 (4)①④, 3 (6))
- (5) 美しさなどに対する豊かな感性をもったり生活の中でイメージを豊かにしていったりするためには、幼児が思わず使ってみたくなるその時ならでの素材や、使うときには工夫が必要ないろいろな色や形の素材を豊富に準備し、使いやすいように整えておいたり、幼児の要求に応じていつでも出せるようにしておくことが大切であることが分かった。(Ⅵ2 (4)②③, 3 (6))

2 今後の課題

- (1) イメージや表現したい気持ちは持っていても、実現する技術が伴わないこともあるので、遊びの中で用具や素材の扱い方が身につくように意図的・計画的に指導していく(Ⅵ1 (5)②, 2 (4)⑥, 3 (6))
- (2) 幼児が見たり、聞いたり、臭いをかいだり、触れたり、質感を感じたり、という五感に働きかける体験により、豊かな感性が育まれていくことが分かったので、その体験ができるような環境構成や援助の工夫をしていく。

〈主な参考文献〉

文部科学省	『幼稚園教育要領』	文部科学省	2008年
文部科学省	『幼稚園教育要領解説』	フレーベル館	2008年
槇英子	『保育をひらく造形表現』	萌文書林	2008年
平田智久	「領域・表現」無藤隆・柴崎正行編『新幼稚園教育要領・新保育所保育指針のすべて別冊「発達」29』	ミネルヴァ書房, 71~78ページ	2009年
森上史郎・柏女霊峰編	『保育用語辞典 第6版』	ミネルヴァ書房	2011年
榎沢良彦 編集	『保育内容・表現』	同文書院	2012年

